

目指す学校像 (教育方針)	◇【自治】道義と秩序を重んじ、自己に責任を持つ自主・自律生活の実践を図る学校 ◇【勤勉】学問尊重と真理を求める気風の育成を図る学校 ◇【快活】自他の敬愛と協力による豊かで快活な生活態度の樹立を図る学校			
三つの方針		具 体 的 目 標		
「三つの方針」 (スクール・ ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	卒業までに次のような生徒を育成します。 (1) 思考力・判断力・表現力を身に付け、主体的に課題発見・解決に取り組む生徒 (2) 国際感覚を身に付け、グローバル化が進展する社会で活躍することのできる生徒 (3) 「自治・勤勉・快活」の校訓にもとづき、地域や国際社会のリーダーとなることのできる生徒		
	「教育課程の編成・実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	次の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。 【知】 コース選択制、進学重視型単位制を生かした教育課程を編成及び実施し、生徒一人一人の学力向上と進路実現を図る学校 【徳】 カリキュラム・マネジメントを推進し、探究学習、キャリア教育等を充実させ、課題発見・解決能力、豊かな人間性と社会に貢献できる力を育成する学校 【体】 特別活動、部活動等への生徒の主体的な取組を推進し、心身の健全な育成を図る学校		
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	次のような生徒を求めています。 (1) 探究心があり、学習意欲の高い生徒 (2) 地域や国際社会に貢献する意欲の高い生徒 (3) 諸活動に積極的に取り組み、自分と集団を成長させる意欲の高い生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
●対話的でわかりやすい授業の実践に努めているが、家庭学習が習慣化されている生徒が少ないため、学習調査結果を踏まえ、学習時間の確保に向けた取り組みを継続する必要がある。附属中学校からの中高一貫教育校の良さを最大限に生かすカリキュラムの構築を、高校と附属中学校が協働して進めていく必要がある。		○学力向上 生徒の学力向上に努める。そのために学習指導の充実を図り、手段としてICT機器の効果的な活用に取り組む。	◇ 教科指導の充実・学力向上 ア 指導体制の充実と授業時間の確保 イ アクティブ・ラーニングを取り入れた指導方法の改善と工夫 ウ 自学自習と学習活動の習慣化 ◇ 授業第一主義 予習をして授業に臨み、復習をして学力を身に付けさせる鹿島スタイルの浸透	B
		○進路指導の充実 (大学進学支援及び幅広い進路希望支援) 自分を見つめ、将来に対する目的意識を持ち、進学及び就職等の進路を自ら選択・決定し、自己実現ができるよう指導の充実を努める。	◇ 進路指導の強化 個人面談等を繰り返し行い、進学目標の早期明確化と、その目標実現に向けた効果的・継続的な取組 ◇ 就職指導の充実 資格取得の奨励や望ましい職業観・勤労観の育成を推進	B

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>●進学実績は大学進学114名で、延べ合格者数は195名であった。また、国公立大学現役合格者は県内の国公立大学(筑波・茨城・県立医療)の現役合格者5名を含む8名であった。就職では、公務員や地元企業等に30名が合格し、本年度も内定率100%を達成した。附属卒業生が高校1年次に入学する初年度を機に、改めて長期的な進路意識の醸成を目指し、高校3年間を見通した組織的・継続的な進路指導を行うとともに、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>●部活動の加入率は、71%台である。新型コロナウイルスの影響が残ってはいたが、各種大会において上位入賞を果たすなど、学校全体に次第に活気が戻ってきており生徒たちの部活動への意欲は高く維持されていた。本校の伝統である文武両道を維持し、心身共に健全な生徒の育成に努めたい。</p> <p>●学校近隣の住民や、地域の小学校や中学校に対し、定期的にホームページの更新や学校便り等で情報を提供し、地域に愛される学校づくりに努めていきたい。</p>	<p>○基本的な生活習慣の確立 (「み・そ・あ・じ」指導の徹底) 学校として統一的な指導体制を堅持し、家庭や関係機関との連携を組織的に進めながら、自主的・自立的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。</p>	<p>◇ 秩序を重んじ、自ら律する心や他人を思いやる心の育成 ア 人権尊重(偏見・差別をなくす) イ 規律の遵守 ◇ 健康・安全意識の高揚と、交通安全・防災教育の充実 ア 交通安全教育の充実 イ 防災教育の充実 ウ 性教育(エイズ教育等)の推進 エ 薬物乱用防止教育の推進</p>	B
	<p>○特別活動・部活動の振興 (学校生活の充実支援) 特別活動・部活動を積極的に推進し、全人的発達に努める。</p>	<p>◇ ホームルーム・生徒会活動の活性化 ◇ 部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進 ア 施設設備の効率的利用 イ 他校・地域の行事やボランティア活動の理解と参加</p>	A
	<p>○広報・生徒募集活動の充実</p>	<p>◇ 本校への理解促進を図るため、情報収集及び情報発信を積極的に行う。 ◇ 生徒募集活動を工夫し、計画的に及び随時行う。</p>	A
	<p>○コンプライアンスの徹底(「たいせつです」運動)及び働き方改革の推進</p>	<p>◇ 「たいせつです」運動の推進を含め教職員のコンプライアンス意識を高め、服務規程の確保に努めるとともに、教職員の「働き過ぎ」を防ぐなど働き方改革を推進する。 「たいせつです」:体罰の根絶・飲酒運転の根絶・セクハラ等の根絶・使い込みの根絶・データ漏洩の防止・スピード違反の防止</p>	A
	<p>○学校組織運営の見直し</p>	<p>◇ 業務改善を図る校内委員会の設置 ア 必ずしも教員が担うべき業務であるが削減や縮小の必要な業務の見直し イ 必ずしも教員が担うべき必要のない業務への対応 ウ 校務分掌・学年等の組織内の業務平準化への取組の推進 ◇ 職場環境整備の推進</p>	B
	<p>○授業改善</p>	<p>◇ 授業満足度(KPI)80%以上の達成</p>	A
<p>健康 【和氣藹々】^{あいあい} 報・連・相</p>			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (全体)	基礎・基本の確かな定着	基礎・基本を定着させるために練習問題等を積極的に課し、反復学習を徹底させる。	B	今年度は、国立教育政策研究所による教育課程実践検証協力校に係る学校訪問「家庭科」が実施された。その際、本校の授業改善に向けた取組や教科の指導等について、授業改善推進チームで研究協議を行い、教科の枠を超えた新たな視点での活発な意見交換を行った。生徒の主体的な学習活動の在り方等を各教科で共有することができた。次年度は、授業改善推進チームを中心に更に研修等を充実させ、学校全体としての授業改善を行っていききたい。
	わかりやすい授業の展開 授業改善	「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導方法を研究し、指導力向上に努める。	A	
		教員間で学習指導に関する情報交換を密に行い、自らの授業改善に活かす。	A	
		生徒の理解度を的確に把握し、確実に理解できる指導方法を工夫改善していく。	B	
	学習習慣の確立	家庭での自主学習の必要性和効果が実感できる授業を展開し、学習の習慣化を図る。	B	
教 科	基礎学力の向上と、家庭での 学習習慣の定着	小テスト等具体的な学習課題を課し、確かな基礎学力の向上を図る。	A	ICT機器を活用した授業を充実させることができた。今後も継続して取り組んでいきたい。令和7年度大学入学共通テストから試験時間が80分から90分と10分延長となり、問題量が増え、多様な文章が提示される方向性である。そのため、新聞の活用をもう一度見直し、情報の読み取り方や論拠として活用できるよう今後指導していきたい。
		新聞を活用した学習や図書の紹介等を通して、国語体験の充実を図る。	B	
		漢字検定や読書感想文コンクール参加等を通して、語彙力や作文力の向上を図る。	A	
		「ことばのイメージ化」を効率よく図り、理解を深めるために、電子黒板・Chrome book等を積極的に活用する。	A	
	授業の改善	年間指導計画と評価規準を活用して、授業目標の具現化を図る。	A	
		生徒の学習状況や理解度を把握し、授業に活かすための指導方法の工夫改善を図る。	A	
		各種研修会に参加して教科研修に励み、自己研鑽に努め指導力向上を図る。	B	
		電子黒板等のICTを適切に授業に取り入れられるよう、定期的に教科研修を行う。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
地歴	基礎学力の向上・授業改善	基礎・基本を大切にし、わからない語句は自ら調べることにより、学習内容を理解させる。	B	ICT機器を活用した授業を展開しており、今後も継続させていく。また、実物教材を使った授業についても同様に継続していく。		
		單元ごとに復習プリントや小テスト等を実施し、知識の定着を図る。	B			
		生徒への個別対応を重視し、考査前などの十分な補習時間の確保に努める。	A			
		視聴覚教材やICT機器を活用した授業の充実を図る。	B			
	地理・歴史への興味、関心を高める授業の工夫・改善	大学入試新テストに即した指導の実践と、多様な指導方法を身に付ける。	A			
		実物や視聴覚教材等の積極的な活用により、興味・関心を高める。	A			
		資料の活用・レポートの作成や発表会等の活動を行い、主体的に学習できる機運を高める。	B			
		郷土を知り、郷土の歴史や伝統を守る気風の育成	A			
	公民	基礎学力の向上・授業改善	基礎・基本を大切にし、わからない語句は自ら調べることにより、学習内容を理解させる。		B	ICT機器を活用した授業を展開しており、今後も継続させていく。また、時事問題を授業で扱ったり主権者教育・理解啓発についても同様に継続していく。
			單元ごとに復習プリントや小テスト等を実施し、知識の定着を図る。		A	
			生徒への個別対応を重視し、考査前などの十分な補習時間の確保に努める。		A	
			視聴覚教材やICT機器を活用した授業の充実を図る。		B	
現代社会への興味・関心を高める授業の工夫・改善		大学入試新テストに即した指導の実践と、多様な指導方法を身に付ける。	A			
		新聞や視聴覚教材等の積極的な活用により具体的事象を認識し、興味・関心を高める。	B			
		時事問題を積極的に取り入れ、今を知り、未来を考えさせる機会を増やす。	A			
		模擬投票等の取り組みを行い、主権者として関心や意識を向上させる。	A			
人間としての在り方・生き方を考えさせる機会を増やし、職業観・人生観や公民としての在り方の育成		青年期の問題を自己の問題として捉えさせ、職業観・人生観について考える機会を増やす。	B			
		政治や選挙等について、高校生副教材を用いながら指導を充実させる。	A			
		現代社会の抱える諸課題や自分の考えをレポート等にまとめることにより、公民としての在り方、生き方を考えさせる。	A			
		数	基礎学力の向上	考査結果を主に学習の理解度を客観的に把握・分析し、理解の不十分な生徒に対して復習を主とした補習等の対応を充実させる。	B	
ICTを活用した指導方法を充実させ、視覚的理解を得やすい指導を図る。	A					
進路希望に応じた指導	教科書や問題集の内容から定期的に課題を与えることで、予習・復習の習慣化を図る。		B			
	副教材や課題をコース毎に分類するとともに、習熟度別に応じた指導を徹底する。		B			
	大学入学共通テストに即した指導の実践を行い、受験に向けたきめ細かい指導をする。		A			
	授業進捗の確認や生徒の理解状況等を共有することで、授業の質の向上、改善に努める。		A			
指導と評価の改善	單元目標を明確にした指導と評価を行い、生徒の学習意欲の向上を図る。		B			
	科学的に探究する能力と態度の育成及び授業改善		アクティブ・ラーニングを重視した観察・実験を通して理解を深めさせる指導方法の充実を図る。	B	新学習指導要領の3つに整理された観点別学習状況の評価の趣旨をよく踏まえ、適切な評価のために情報共有をしていきたい。プロジェクト-Kの発表を附属中や高2にも拡大して実施予定なので、しっかり準備をする。	
ワークシートの活用を通して、考え方の道筋をより理解できるように工夫する。		A				
学習内容と自然現象や科学技術との関係を示し、生徒の興味・関心を育てる。		A				
発問や問題演習の中で生徒からの質問を促し、双方向のかつ探究的な授業を行う。		B				
科学的な自然観の育成	課題を通して、授業の復習を徹底し、授業内容のより一層の理解と定着を図る。	A				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
保健体育	生徒が自主的・意欲的に活動できる場の設定	グループ活動をとおして各グループの課題に気付かせ、互いに学び認め合う態度の育成と協働的に課題解決できるための場の設定を行う。	A	今後も引き続き、体力測定の結果や各種運動の授業を通して、運動課題や健康課題に対して、運動計画を考えたり、実生活の改善に取り組んだりすることのできる資質や能力を身につけさせる。また、ICT機器を積極的に活用することで、技能課題や思考の視覚化を図っていく。		
		ICT機器を活用してトップレベルとの技能比較を行い、練習方法を考えさせる場の設定を図る。	B			
		運動に積極的に取り組めるような活気あふれる雰囲気作りをする。	A			
	生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力の育成	各種の運動特性に触れ、その運動の楽しさや喜びを体得できる指導方法を工夫する。	A			
		生徒の能力・適正、興味・関心等に応じて種目選択を促し活動意欲の向上を図る。	B			
		日常生活に運動を計画的・継続的に取り入れることのできる指導方法を工夫する。	B			
	健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上	健康診断や体力測定結果を踏まえ、健康の保持増進と体力向上を目指す態度を育成する。	B			
		現代の健康課題を明確に捉え、より健康増進を目指すための知識や手段を実践できる態度の育成を目指した授業内容と指導方法を工夫する。	B			
	教 芸 術	授業において芸術の幅広い活動を展開	科目ごとに実践的・体験的な諸活動を多く取り入れた指導内容の工夫をする。		A	ICT機器のより一層の活用をしていきたい。次年度は、芸術を愛好する心情の育成に向けて、様々な芸術文化の美しさや多様性を考える機会を多く設けていきたい。
			鑑賞を通して、創造・表現力を向上させる言語活動を重視した指導方法を工夫する。		A	
			生徒が興味や関心、個性を生かして主体的に関わっていけるよう指導方法を充実させる。		A	
		生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒のもつ芸術的な価値意識を一層拡大できるよう教材を工夫する。		A	
生活を明るく豊かにするための創造活動を重視し、基礎的な資質能力を育成する指導内容・教材を工夫する。			B			
我が国の伝統や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探究		日本の伝統音楽に触れる機会を増やし、歴史や哲学など発展的な学習を工夫する。(音楽)	B			
		鑑賞や制作活動を通して、日本の伝統美術の独自性を考察させる指導を工夫する。(美術)	B			
科	家庭学習の習慣化	「鹿島スタイル」である予習・授業・復習のサイクルを確立させ、家庭学習の習慣化を図る。	A	今年度はALTの増員により、生徒がネイティブの英語に触れる機会が増えた。授業では、予習・復習の定着が見られるようになってきた。小テスト等の継続実施により、語彙力の育成を図っている。また、2学年の国際コースACEプログラムでは、外部との連携による特別講座を設けることで進路選択の意識を高めることができた。この科目で来年度より、習熟度別授業を予定しており、有意義な進め方を検討していきたい。さらに、英検受験者・合格者も年々増えており、二次面接練習は分担して行うことによりほぼ合格したが、限られた期間内かつ大人数のため、計画性が必要となる。		
		基礎学力の向上	授業中の声かけ、机間指導、定期的なノートや課題等の点検を通して生徒の理解度を的確に把握し、適切な指導に活かす。		A	
	定期的な小テストや語彙力育成等を実施し、基礎学力の定着・向上を図る。		A			
	英語力のさらなる向上		実用英語技能検定等の受験を積極的に奨励し、計画的・継続的に対策指導を実施する。		A	
		スピーチコンテスト等校外で開催される英語活動への参加者を増やし、総合的な対策指導を行う。	B			
	外国語	英語力のさらなる向上	ICT機器を積極的に活用し、4技能5領域の英語力をバランス良く高める指導を行う。		B	
			生徒が意欲的に取り組む授業への工夫と改善		授業内容や指導方法について、教員間で情報共有を行い常に授業の工夫改善を行う。	B
		学校設定科目「ACEプログラム」と「英語読解」の授業を通して、英語への関心をさらに高めさせる指導方法の工夫をする。			B	
		新学習指導要領及び『大学入試共通テスト』等に対応した指導が行えるよう、研修会等に参加したり、関連書物で情報を得るなどして、指導内容及び方法の幅を広げる。			B	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 科	家 庭	授業内容の研究と工夫・改善	生徒の学習意欲を高める指導方法の研究と生徒の自立に役立つ授業を実践する。自分の生活をデザインし、将来の家庭生活について自己決定ができるよう、授業内容の工夫と改善をする。	A	A 生徒の実態に合わせて、柔軟に授業の課題や活動内容、ICT教材を使用することができた。 次年度は、課題の配信から評価までの流れを確立したい。データでの課題の編集スキルを指導できるよう、研修にも参加する。
		生活に必要な基礎知識と基礎技能の習得 実習・実験の充実	実験・実習を通して、生活に必要な基礎知識と基礎技能の定着を図り、青年期として自立を推進できる学習内容を工夫する。	B	
			生活に必要な基礎知識と基礎技能を習得させ、家庭生活を創造する能力と実践的態度を育てるために、指導内容や指導方法の工夫と改善をする。	A	
	情 報	コンピュータの基本操作の理解	普段からコンピュータの効果的な活用を目指し、操作技能を高める指導内容を工夫する。	A	A 情報モラル等の知識について、継続して指導をする。 また、ICT機器の効果的な活用法についての研修が必要である。 大学入学共通テスト対策を実施する。
			アプリケーションソフトウェアの基本的な操作方法を理解させる授業内容の工夫をする。	A	
		情報通信ネットワークの理解	情報通信ネットワークに関する情報収集や発信において、信頼性や信憑性を留意させるとともに、個人情報保護や著作権等にも配慮させ、情報化社会で必要な心構えについて学習させる。	A	
	商 業	ビジネスの重要性の理解	オフィス実務に関する基礎的な知識と技術を実践的、体験的な学習を行う。 ビジネスマナーを身に付けさせ、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を育てる	B A	B データ処理能力と情報モラルに関する知識・技能を身に付けさせる指導の工夫を図る。 生徒が主体的に活動できる学習法を積極的に取り入れる。
		情報社会を認識した活用技術の定着	情報社会におけるコンピュータの役割を理解させ、専門用語や基本的なデータ処理の方法を学習するとともに、日常生活で活用できる力を身に付けさせる授業内容の工夫をする。	A	
		資格取得の奨励	生徒一人ひとりの能力に応じた受験級を設定し、検定試験により技術の到達度や知識の理解度を確認させる。	C	
	教 務	進学重視型単位制の編成及び中高一貫教育校の運営の推進	グランドデザインを基に進学重視型単位制の新教育課程を編成し、高校と附属中学校の円滑な学校運営を図る。	B	B 進学重視型単位制への移行と教育課程の編成を行い、内規の整備を進めた。附属中との連携を深め、各部署との連絡調整を円滑に行いたい。また、授業時間を確保できるように、行事や予定の調整をしていきたい。
生徒が生き生きと輝く授業実践及び学習評価と校内研修の充実		定期考査の滞りない実施や、観点別評価による適切な評価により、授業へ取り組む意欲を喚起する。	B		
授業時間の確保と緊密な連絡・調整		各分掌・学年との連絡・調整のもと、行事・日程等の効率化を図りながら、授業時間の確保に努める。	B		
生徒指導	人権尊重の精神の育成	総合・道徳の時間の中で、命の尊さについて話し合い考えさせる。	B	B コロナによる制限の緩和により生徒全体に向けた指導・支援が徐々にオンラインや書面といった手段だけから全校集会や学年集会を活用できるようになってきた。今後はコロナ前の形に戻していきたい。また、SNSについての知識やマナーについて再度意識付けが必要であると考える。さらに、交通安全や自転車の乗車マナーの徹底に加え、ヘルメットの着用に関しても着用率を上昇させていきたい。	
		偏見や差別のない学校生活の構築に努める。	A		
		集会やホームルーム等を積極的に活用する。	B		
	基本的生活習慣の確立	規則正しい生活リズムの確立を図る。	A		
		頭髪や服装など規則厳守の精神の育成に努める。	A		
		社会の一員であることを自覚し、正しい判断力の育成に努める。	B		
	交通安全教育の推進	関係機関による講演会や校外指導を実施することで、交通事故防止に努める。	A		
		自転車・原付バイク・四輪車について、登録管理の徹底及び免許取得規定の厳守を図る。	A		
		生徒の自転車運転における損害賠償保険の加入に努める。	B		
	情報モラル教育及び有害情報対策	様々な機会を捉えて、情報活用能力の育成を図る。	B		
講演会や動画等を通して有害情報をより具体的に生徒に掲示する。		A			
薬物乱用防止教育の推進	警察をはじめ、大学や医療機関による薬物乱用防止講話を実施する。	A			
	警察や関係機関との連携を密にし、情報交換を行う。	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	進路目標の実現	学習実態を含む進路希望調査を年間3回実施し、定期的に生徒の実態把握に努め、各学年の進路指導にあった適切な資料の提供を図る。	A	進学重視型移行の視点を踏まえて、高校3年間で一貫した模擬試験計画、キャリア支援を通して、生徒一人ひとりの希望進路の実現を図りたい。そのために、各学年間、教科間の連携をより強化するよう努める。 進路指導室の職員常駐化と個別進路相談開放時間の増加、進路資料室の充実を図りたい。
		全国模試・適性検査等の分析による生徒の学力状況の把握・評価を行う。	B	
		就職希望者に企業見学を実施し、一人一人に適する就職を実現し、内定率100%を目指す。	A	
	進路意識の高揚	学習指導部・各学年・各教科との連携による各種キャリア支援・進路指導の充実を図る。	B	
		大学教員による模擬授業・公開講座・大学見学会・進路講演会等の実施による生徒の進路意識の向上を図る。	A	
		総合型選抜・学校推薦型選抜に関するデータを収集・分析し、有効活用を図る。	B	
		課外授業や各種検定試験への積極的な参加を支援し、自ら学ぶ姿勢を育成する。	B	
		新課程を含む大学入学共通テストの情報収集および研究に努める。	B	
	組織的な指導体制の構築	「進路資料」「進路通信」を発行し、精選した進路情報を提供し、各学年の適切な進路指導をサポートする。	A	
利用促進のために進路資料室を整備し、進路相談に適切に対応できるよう努める。		B		
特別活動	ホームルーム活動の充実	生徒による主体的なHR運営と、特色のあるHR活動の実践を支援する。	B	今年度、4年ぶりに応援団を結成し、全校野球応援を実施することができた。また、体育祭などの学校行事が生徒が主体的に活動し実施できた。生徒会活動においても昨年度以上に生徒が考えて目案箱の設置、動物愛護活動など新たな活動ができる機会が増えた。次年度も生徒主体のホームルーム活動を充実させていきたい。ボランティア活動においては3年生の参加が多く、1、2年生の参加が少なかった。入学年次から継続的にボランティアに参加し、地域に貢献できる機会を増やせるよう働きかけていきたい。
	生徒会活動及び学校行事の充実	生徒の自主的・自発的活動を促すとともに、キャリアパスポートを活用した行事運営を実践していく。また、主体的な学校行事の企画運営に関して中・高が協力して行うよう支援する。	A	
		感染症対策を徹底し、各種行事を通して自主的・自律的かつ責任ある行動のとれる人間の育成を図る。	A	
	部活動の充実	部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進に努める。	A	
		統一的な指導体制を維持し、生徒の安全と活動を見守り、部活動の環境を整える。	A	
	ボランティア活動への理解と参加	生徒が自主的にボランティア活動ができるように情報を提供し、奉仕の心の育成を図る。	A	
地域社会に目を向け、地域に貢献する人材の育成を図る。		B		
学習指導	総合的な探究の時間の活性化	「総合的な探究の時間」の参考情報提供、研修案内等サポート体制の確立をする。	B	探究活動においては、全学年を通してクラス内発表やドリームパス事業参加などタブレットを活用して取り組めた。また、今年度は県の授業評価アンケート、授業改善プロジェクトに関わる学校訪問、校内職員向け小論文研修など計画的に実施できた。授業改善においては、次年度以降も推進チームを中心として、横断的かつ継続的に進めていきたい。
		生徒へ向けての「学年別進路ストーリー」資料作成・配布による探究取組を支援する。	A	
	効果的な学習指導法の研究と実践	令和5年度「いばらき高等学校学力向上推進総合事業」への参加と教職員研修を実施する。	B	
		令和5年度「生徒による授業評価アンケート」の計画し実施する。	A	
		令和5年度「授業改善プロジェクト」における授業改善取組・支援、研修等に参加する。	B	
		各教育研修事業の案内・推奨を行う。	B	
		小論文指導において、職員向け校内研修の実施と外部講座の推奨を行う。	A	
	学習指導部運営の円滑化	教科年計指導計画を取りまとめる。	A	
学年、教科、他分掌との連携を図る。		B		
図書視聴覚	図書館・視聴覚室の環境整備と充実	図書館の常時開館、視聴覚室等の環境整備に努め、利用しやすい環境づくりに努める。	A	エアコンの設置により、図書館としての環境が整いつつある。探究学習の情報源、学習の場、読書の場としてさらに整備を進めたい。蔵書のディスプレイ方法や図書委員会による各種イベントなども企画し、利用を促進していきたい。
		生徒や職員に購入希望調査を行い、ニーズに合った図書館づくりに取り組む。	B	
	本に親しむ環境整備	読書・学習・情報センターとして、機能的な環境づくりに努める。	B	
		図書委員会の活性化を図る。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
渉外	P T A活動・同窓会活動の推進	P T A総会や同窓会活動への参加率を上げ、活動の活性化を図る。	B	同窓会に関して、女性会員の役員への参画が課題ではあるが、引き受けていただける方が少ないのも実態である。今後とも引き続き協力をよびかけていく必要がある。
		同窓会・学校・保護者と研修会や会議等を利用して連携を図る。	A	
		同窓会組織において女性会員の参画が促されるよう役員各位と連携を図る。	B	
	保護者と学校との連携	さらに保護者と学校の緊密な連携を図る。	A	
	広報活動の充実	P T A新聞や同窓会ホームページの内容等を吟味し、その内容の充実に努める。	A	
広報活動や各種研修会に積極的に参加する。		A		
保健厚生	学習環境の整備	校内の施設設備の定期的な安全点検するとともに、管理徹底を図る。	A	教室や廊下など長寿命化工事により改善されたので、新たな清掃方法や用具の更新を行う。 防災・防犯に関しては多くの災害・犯罪が発生していることを踏まえ、訓練においても危機感を持って行うことと、危険回避能力を養う。 個人の判断にはなるが感染症対策は継続的に行い、状況に応じて早急の対策が講じられるようにする。
	環境美化意識の高揚	整備委員会をはじめ、クラスや部活動などで校内の美化に努める。	B	
		ゴミの分別処理の徹底を図る。	A	
	防災・防犯訓練の充実	防災避難訓練や不審者対策としての防犯訓練等を計画的に実施する。	A	
		地域の関係機関等との連携を図る。	B	
	健康・安全教育の充実	面談、相談を通して、生徒の健康問題等に早期に対応する。	A	
感染症対策、食生活、運動習慣確立のための情報発信を積極的に行う。		A		
心身の健康管理ができる生徒の育成	生徒の健康管理能力育成、体力の向上のための事業を計画的に実施していく。	B		
	積極的に体育的行事に参加させ、活動をとおして仲間づくりを実践させる。	B		
教育相談	問題を抱えた生徒への理解と情報の共有化	問題を抱えている生徒の早期発見と対応に努め、教員間の情報の共有化と共通理解を図る。	A	教育相談部便り発行、研修を開催。月例の相談部会を実施、生徒の現況を部内で共有、共通理解を図り、必要な支援を行ってきた。
	校内研修の充実	多様化する生徒への対応に応じた研修を行う。	A	
情報	成績の管理	統合型校務支援システムを充実させ、生徒の成績に関する情報を管理する。	A	・職員会議後のICT機器やアプリ、情報セキュリティのミニ研修は効果的だったため、次年度も継続していきたい。 ・Classiの運用のサポートを継続的に実施し、活用促進を図りたい。 ・勤怠管理システム変更のため、情報部では管理を行わなかった。
	I C T教育の推進	chromebook・Classi等ICT機器やアプリケーションの研修等を実施し、活用促進を図る。	A	
	働き方改革の推進	勤怠管理システムの管理を行い、働き方改革を図る。	A	
	運用・管理	教育情報ネットワークのアカウント管理と、Google Classroom、Classiの運用を適切に行う。	A	
広報	企画運営の習得	様々な広報活動に取り組む中で作業内容や意義を理解する。	A	・昨年度作成しなかったクリアファイルの作成をして広報グッズを充実させていく必要がある。 ・附属中学校と緊密に連絡を取り合い協力して効果的な広報活動にする必要がある。 ・学校説明会でのアンケート回収率を上げる(事前に、中学生に携帯電話を持参してほしいことを伝える)
		附属中学校と緊密に連絡を取り合い協力して有機的な広報活動にする。	B	
	広報活動の刷新	学校ホームページを定期的に更新し、閲覧数を増やす。	A	
		スクールガイド、クリアファイル、ポスター等で本校教育活動が地域に見えるようにする。	B	
		写真や動画を積極的に活用することで、本校の教育活動を地域にわかりやすく知らせる。	A	
	学校紹介の充実	学校説明会や学校公開を状況にあわせて充実させる。	A	
鹿苑だより等で地域や保護者と情報を共有する。		A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第1年次	本校の新しい歴史と伝統を作り上げていく精神の育成	本校の歴史と伝統を自覚し、学校内外を問わず鹿島高校生としての誇りと責任ある行動を心がけ、充実した高校生活を送るための意識を高める。	A	A ・上位大学進学レベルの学力の生徒が多数いる一方で、基本的な事項で躓いている生徒も多い。上位者を伸ばしつつ、学習に対して苦手意識を持った生徒をサポートする授業形態や年次としての取り組みの実施が必要である。 ・学校生活や学習に対して悩みを抱えている生徒や体調を崩しがちな生徒を担任教諭だけでなく複数名のチームで支える体制づくりが必要である。 ・ボランティア活動などの課外活動への積極的な参加を促していく。
	規範意識の涵養と心の教育	学年集会や道德等を通じて、基本的な生活習慣の確立に努める。	A	
		道德・LHRを含む教育活動全体の中で、規範意識の向上と心の教育を図る。	A	
	学力の向上と進路目標の設定	主体的に授業に取り組む姿勢を養い、基礎学力を身につけさせ、自らの成長を実感できるようにする。	B	
		予習・復習を中心に家庭学習の習慣化及び学習内容の定着を図るため各教科で小テストなどを実施し、基礎学力の定着・学力向上を目指す。	A	
進学課外や各種進路行事に積極的に参加させ、将来の進路の方向性を明確化させる。	A			
特別活動に積極的に参加する精神の高揚	部活動や生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等への積極的な参加を促すとともに、自主・自律の姿勢を持たせ学業との両立、健全な精神の育成を図る。	B		
第2学年	学力の向上と進路目標の設定	「鹿島スタイル」である予習・授業・復習のサイクルを確立させ、主体的に授業に取り組む姿勢を養い、基礎学力の定着・学力向上を目指す。	B	A ・部活動参加生徒が放課後の課外に参加できない状況であるが、部活動引退後、また、部活動に入っていない生徒の課外授業の積極的な参加を促していきたい。 ・小テストや課題に取り組むために、休み時間などのすき間時間を活用するなど、目的を持って時間を有効利用していけるよう継続的に指導する。 ・自分自身を客観的に見る姿勢を養い、場をわきまえた言動が常にできるよう指導していきたい。
		家庭学習の習慣化及び学習内容の定着を図るため、各教科で小テスト等を実施する。	A	
		学力向上のための課外講座、各種進路行事に積極的に参加させ、将来の進路選択の方向性を定めさせる。	A	
	規範意識の涵養と社会性・主体性の育成	学年集会や個別面談指導等を通じて、基本的な生活習慣の確立に努める。	A	
		言葉遣い、挨拶などTPOをわきまえた言動がきちんとできるように指導する。	B	
	学校生活の充実	文武両道の精神に基づき、部活動と学業の両立を図れるよう継続的に指導する。	A	
		修学旅行をはじめとする学年行事を有意義なものにするため、事前に綿密な計画をし、教員間の連携を図りながらその実現を目指す。	A	
特別活動に参画する精神の高揚	生徒会活動・学校行事・ボランティア活動等の社会貢献活動への積極的な参加を促し、健全な精神の育成を図る。	A		
第3学年	鹿島高校として品位のある生活態度の確立	伝統校の生徒としての誇りを持ち、校内外を問わず、正しい容姿・態度を心がけるよう継続的に指導する。	A	A ・進路実現に向けて、早期から、継続的な学習や資格取得の必要性、部活動やボランティア活動への参加の重要性を根気強く指導していく。 ・総合型入試・推薦入試・一般入試での合格者増に向けて、学年ごとに面接指導や学習指導に大きな差がないように校内システムの整備が必要と考える。 ・生徒一人ひとりの進路実現のために、教員としての学習指導・進路指導力を高める。 ・国公立大学、難関私立大学の合格者を増やすための生徒のレベルアップを図る方策を常に探究する。
		社会で通用する言葉遣い、挨拶などTPOをわきまえた所作が出来るように指導する。	A	
		集団の中での役割を自覚するとともに、社会性を身に付けるため様々な教育活動を通して責任感や助け合いの心を醸成し、他者を思いやることができるよう指導する。	A	
	進路実現のための確かな学力を醸成	面談等の個別指導の充実を図り、良い進路選択ができるように生徒に寄り添い、助言・指導しながら進路指導を丁寧的に行う。	A	
		予習・復習の徹底(鹿島スタイル)を図りながら授業に集中し、家庭学習も定着させ、希望進路の実現に向けて生徒の学力向上を図る。	B	
	高校生活の集大成	自主・自立の姿勢を中心に部活動と学業の両立を図るよう、継続的に指導する。	B	
高校生活の集大成がしっかりとできるよう、時間をかけた対話の教育を実践し支援する。		A		

※ 評価基準

A=大変良くできた B=良くできた C=普通 D=やや不十分 E=不十分